

順天堂大学医学部九号館八番教室

一、草莽の女医 生澤クノ

石原 昂

一、京の阿蘭陀宿海老屋の実態

片桐 一男

十一月例会 平成十年十一月二十八日(土)

順天堂大学医学部九号館八番教室

一、家紋からみた杉田玄白の遠祖

中西 淳朗

一、〈医は意なり〉攷—医学思想的視点から— 館野 正美

十二月例会 平成十年十二月十九日(土)

順天堂大学医学部九号館八番教室

日本薬史学会・日本獣医史学会と合同会

一、日本医史学会が創立されるまで 岡田 靖雄

一、日本の薬学教育史：最近の医療薬学への転換

山川 浩司

一、日本の女性獣医師について 長尾 壮七

例会抄録

十九世紀末ドイツのベルリン学派による

ヒプルギー (Hygiene, 看護療法) について

平尾 真智子

十九世紀末ドイツのヒプルギー (Hygiene, 看護療法) の提唱者は、ヘルリン学派のメンデルゾーン (Mendelsohn, Martin

Alfred 1860-1930) である。一八九〇年代前半にベルリン学派がライデン博士を中心としてこの療法を創始した。

このドイツのヒプルギーについては、明治時代の代表的な医学雑誌『中外医事新報』に富士川游が明治三十三(一九〇〇)年に投稿した「知学的看護法」という文献によって知ることができる。富士川はドイツ語の“Wissenschaftliche Krankenpflege”の訳として「知学的看護法」の言葉を使用した。現在「知学」という言葉はわが国では使用されていない。

このドイツ語の Wissenschaftliche は Wissenschaft の形容詞形で、Wissenschaft の現代の訳は「科学」となっている。「科学」という言葉は、幕末から明治にかけては「個別学問」の意味で用いられ、明治が進み近代日本の学問教育体制が整うにつれて、今日と同じ近代自然科学という意味で定着していった。富士川によって三回にわたって連載された「知学的看護法」には、十九世紀のドイツの医師メンデルゾーン氏の知学的看護法 (ヒプルギー, Hygiene) が紹介されている。その内容は、知学的看護法の定義、歴史、知学的療法における知学的看護法の位置、知学的看護法の治療作用、知学的看護法の治療材料、知学的看護法の作用、結論となっている。

知学的看護法 (Die wissenschaftliche Krankenpflege) とは、知学的認識を根拠として、看護介補品 (Hilfsmittel) を応用する法則を講ずるものである。メンデルゾーンがこの法に「ヒプルギー」 (Hygiene) の名をつけた。

知学的看護法は『看護法時報』 (Zeitschrift für Krankenh-

(Flege) という雑誌によって世に紹介された。医家の看護法に知学上の基礎を与えることに貢献したのはベルリン学派の諸子である。メンデルゾーンが一八九八年に著した『看護法』(Die Krankenpflege) はオイレンブルヒ、サムエル著の『普通療法講本』の第一巻に納められ、知学的看護法を系統的に記述した最初の本となっている。メンデルゾーンはベルリン大学の内科に所属し、毎月一回『看護法時報』を編集している。メンデルゾーンはペンツォルド、ステンチング編『内科治療全書』の付録として『医家の看護法』と題する大作をも出版している。

看護法 (Krankenpflege) とは、わが国で俗に言う看病、医家の治療上助手とも見られるべき看病人が、医学上の知識なくして単に病人の看護に従事することをいう。メンデルゾーン氏はこれを分類して、Krankenversorgung (病人の世話をする) と Krankenwartung (病人を看守する) の二つとし、知学的看護法と似てはいるが異なる事実を証明した。メンデルゾーンは「知学的看護法」を従来の看護法と区別するために「医家の看護法」(Krankenpflege für Mediciner) ともいつている。富士川は一八九八年一〇月から一九〇〇年八月までの約二年間ドイツのイェナ大学に留学した経験をもっており、帰国してすぐ『中外医事新報』に「知学的看護法」を執筆している。執筆の理由として、今日の看護法は知学的療法の一科目に属し、生理学及びその他自然知学の原則を示すところを標準として、疾病の治療を介補するものであること、健康の看

護 (die Gesundheitspflege) は衛生学として、ベッテンコフエル以来すでに知学上の地位を占めているが、病人の看護 (die Krankenpflege) は「ヒブルギー」として知学上の地位を得ることを試みてからはまだ日が浅く、わが国の目下の状況にあつては、実地医家の目をここに注ぐ必要性が大きいと考え、知学的看護法の現今の状況を略述し同業者に紹介したと述べている。

メンデルゾーンのヒブルギー(看護療法)については西洋医学史の代表的な書物であるシンガー・アンダーウッドの『医学の歴史』やアックカーネヒトの『世界医療史』、ライオンズらの『図説医学の歴史』や川喜田愛郎の『近代医学の史的基盤』にも取り上げられていない。また看護史ではドイツの代表的な看護史であるザイトラーの『病人の看護史』にも取り上げられていない。

メンデルゾーンの看護療法から、科学的な看護法(ヒブルギー)は治療法の一つであり、衛生学を応用し、人体には外部的に作用し、副作用や習慣性がないという特徴をもつもので、十九世紀末のドイツで行われた療法の一つであることが明らかとなった。

ドイツにおける十九世紀末のメンデルゾーンのヒブルギーのその後についてはわかっていない。

(平成十年六月例会)